

まちづくりの地域情報紙

e-NET 6500
EIGENJI



日本庭園と称される御池岳山頂
(奥に見える尖った山が天狗堂)

情報紙 第110号 2023年 9月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP: 050-5802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail: e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



キッチンカーに行列、ちびっこ広場も盛況 今年も楽しかった「みんなの夏休み」



子どもたちの夏休みの思い出のひとつになればと、7月29日、みんなの夏休みをコミュニティセンターで開催しました。

15時のオープニングは鈴鹿吉番太鼓の演奏。すでにこのときには、たくさん子どもたちが集まってくれていました。去年はフードコーナーが無かったのですが、今年はキッチンカー4台が出店され、行列ができるほどの人気ぶりでした。ヨーヨー釣りや射的、サッカー、輪投げなどのちびっこ広場の各コーナーも賑わっていました。また、バルーンショーでは、一緒に歌ったり風船をもらったりと賑やかでした。最後はお楽しみ抽選会です。抽選券とにらめっこで、読み上げられる番号に耳を傾けていました。

氏子かり帳から読み取れるものとは？ 木地師フォーラム開催される



木地師文化フォーラムが、7月17日、木地師やまの子の家で、いまだに多くの謎に包まれる木地師の生活習俗と、氏子かりに焦点をあてて開催されました。講師の原田葉さんは、「氏子かり帳から読み取る木地師の領域について」と題して、木地師や廻国人の移動や位置情報を自ら山の尾根を歩いて研究されたお話をされました。井上卓哉さんは、長野県秋山郷に赴き、トチノキを原材料にした木鉢の製作のお話から、山地を舞台にした人々のなりわいの姿を紹介されました。

また1階に設けられた展示・販売コーナーでは、木地碗のできる工程や道具、東北のこけしが展示され、全国に広がる木地師文化に、参加者は興味深く見入っておられました。

和気あいあいと競技楽しむ 老人クラブディスコン大会



永源寺老人クラブが、会員相互の親睦と健康推進を目的に、7月5日、永源寺体育館で「ディスコン大会」を開催されました。

ディスコンは、赤と青の2チームに分かれて6枚の円盤を投げ、どちらがポイントに近いかを競うスポーツで、幼児から高齢者まで誰でも手軽に楽しめるスポーツです。

大会には、13チーム（1チーム3人）の総勢39人が参加。選手は真剣な眼差しで円盤を投げていましたが、時には同じチームの円盤を誤って遠くへはじき出してしまうプレーも見られ、熱戦の中にも笑いあいの和気あいあいとした大会になりました。

なお、優勝は高木なごみ会Bチーム（高木町）、準優勝は相谷チーム（永源寺相谷町）でした。

世代を超えた交流を 「喫茶よってって」高木会議所に開設



町内の世代を超えた交流とふれあいの場として、高木町有志の皆さんにより『高木町カフェ』が7月8日から会議所に開設されました。その名も、「喫茶よってって」。コーヒー、お茶、紅茶、ジュースなどのメニューがあり、一杯100円でお代わり無料の大サービス。将棋、囲碁コーナーもあります。

早速、お年寄りや子どもたち。また家族連れや、赤ちゃんと一緒にママたちが来場され、とても賑やかで楽しそうな雰囲気の会場でした。『コーヒーがとてもおいしい』とか『リピーターになりそうです』との声も聞かれました。

有志の方は、気軽に足を運んでいただいて、近況を話し合える場になってもらえればとおっしゃっていました。

高木なごみ会 高脚取り付け奉仕作業

高木なごみ会（老人クラブ）では7月15日に自治会公有地の除草作業のあと、参加者約50人が会議所に集まり、会議所の座敷机に高脚を取り付ける奉仕作業をされました。

自治会では今年、大広間を昨今流行の机・椅子仕様にされます。置はそのままですが椅子は新調されます。座敷机はまだまだ大丈夫ですし、初老・還暦記念に寄付してもらっているものも多数ありますので、新調せずに高脚を継ぎ足して再利用することの方針を示されています。その作業の相談があり、高木なごみ会では高脚取り付けを、奉仕作業で取り組むことにされました。

作業は、既設脚のキャップの取り外し・ビス穴位置のマーキング・脚の挿入・ビス留めなどの各担当に分かれ、段取り良く仕事もはかどり、約1時間で完了しました。

脚は木製で既設の色に合うように着色し、既存パイプに差し込む方式でビス留めも行い頑丈なもの。参加者が20台の机に脚の取り付け作業を行いました。

敬老会も今年は以前のような形で開催されます。参加者からは、「今年の敬老会は自分たちの作品のテーブルでご馳走がいただけるので今から楽しみです」と話されていました。



キャップの取り外しと、
ビス穴のマーキング



脚を挿入



ビス留め



取り付け完了

自然の中で読書楽しむ

御池川のほとりで青空図書館

地域おこし協力隊の比良岡さんが企画

清らかな川のせせらぎを聞

です。

きながら本を読む「青空図書館」が7月23日、箕川町の御池川で開かれ、市内外から約60人の親子連れなどが訪れました。

川岸には、比良岡さんや地元

「青空図書館」は、今年4月から地域おこし協力隊として箕川町で活動している比良岡紡蘭さんが、地域の人々の交流の場となり、また箕川町のことをもっと知ってもらえる機会になればと企画したイベント

です。川岸には、比良岡さんや地元の協力者などが事前に集めた小説や絵本、趣味の本など、約千冊が並べられ、読みたい本は無償で持ち帰ることも出来ます。来場者はお気に入りの本を見つけると、大きな木の陰に座り、川からの涼風を感じながら読書をしていました。また、川辺で水遊びを楽しむ子どもたちの姿も見られました。



自然の中で本を選び、読書を楽しむ参加者

9月の開館予定

9/10(日) 9/24(日) 10:00~15:00

広い校庭の除草作業は、やはり人出が必要

みらい会議がきっかけ 地域の住民が校庭の奉仕作業に汗



6月23日、市原小学校の校地の除草作業を行いました。当日は梅雨空の中、30人の方に出役いただきました。約2時間で校地内の全ての除草、また剪定、葉刈り、泥上げ作業が完了しました。

これは永源寺地区21団体で構成される「永源寺みらい会議」のメンバーが、昨年3学校の校長先生とフォーラムを行い、現在の学校の状況を聞き、子ども達がより安全で過ごしやすい学校生活を送るために、お手伝いできるものがあればと計画した事業です。学校からは色々な課題が出ましたが、大きくはスク

ールガードの人員不足と、校内の除草が大変だという事でした。

みらい会議で検討を重ねて、除草についてはまちづくり協議会の安全安心部会が担当をする事になり、学校と調整を行い、当日の実施となりました。

こういう作業に手慣れた方の参加が多く、段取り良く短時間で見違えるほど綺麗になりました。

この奉仕作業は初めての試みでしたが、来年以降も続けていけるように、地域の皆さんへの参加依頼や作業内容について、今後検討してまいりますので、



除草、剪定、排水路の土砂上げも実施

ご協力くださるようお願いいたします。
また、7月11日には、永源寺中学校でも実施し、41人の参加をいただきました。校地が広く、とても2時間余りではすべての除草を行うことはできませんでしたが、国道沿いの生垣、歩道は綺麗になりました。
9月13日には、山上小学校で午前8時から実施いたします。ご参加いただける方は、まちづくり協議会までご連絡をお願いいたします。



奉仕作業のきっかけとなった昨年のみらい会議

滋賀県消防操法訓練大会 訓練の成果 実を結ぶ 第3方面隊 5位入賞



操法序盤のポンプ操作



伝達もホース接続も正確に



滋賀県消防操法訓練大会が7月30日、県消防学校で行われ、小型ポンプ操法の部に東近江市消防団を代表して出場した第3方面隊が、日頃の訓練の成果を発揮され、見事5位入賞を果たされました。

この大会は、小型ポンプを使用して標的を倒すまでのタイムや操法の正確さを競うもので、方面隊では春から大会に向けて、それぞれの勤務を終えたあと集合し、厳しい訓練を続けてこられました。

1番員として出場した栗田拓実さんは、「練習でも起こらなかったハプニングがあり慌てましたが、タイムも自己ベストを更新するなど訓練の成果を発揮することができたと思っています。いろいろな意味において、いい経験になりました」と話されました。大会の結果は、訓練の成果であり、訓練を支え続けてこられた幹部、団員や関係者の協力があったからこそだと言えます。長い間の訓練、お疲れ様でした。

雑草の庭園を癒しの花壇に!!

ふるさと会館のあじさい満開



あじさい満開のふるさと会館の庭園

長く雑草に覆われていたふるさと文化体験学習館の庭園が、癒しを与えるあじさい園に生まれ変わりました。

「勤務した当初は、雑草に覆われた庭でしたので、草刈機で除草作業をしていましたが、来訪者の方の癒しの場になればと思いあじさい園を作ることになりました。」

会館や市原簡易郵便局の利用者の方からあじさいの木を譲り受け、挿し木にして2年間自宅で育て、5年前に利用者の方などにお手伝いいただき、植付作業を行いました。

保水力がない山土ですので朝晩水やりをしたり、毎年藁や麦藁、枯草、もみ殻と客土で甘土を交互に入れ、ようやく一週間雨が降らなくても、しおれない100株くらいのあじさい園に生まれ変わりました。

ふるさと会館や市原簡易郵便局を御利用される方が、癒される施設を目指して仕事をさせてもらいますので、今後ともよろしく願います」と話されています。



中世から争論のあった堀越井

和南町地先にある「堀越井」は、杉峠などを水源とする渋川に幅約12mにわたり巨石を積んで堰堤を設置し、農業用水として利用した水路で、1394年から7年間の年月を経て1401年に完成しています。

堰堤の一番高い天端から水が落下する水叩きまでの落差は約18メートル。導水路の取水幅は約3メートルで、水深10～15センチメートルに調整するため、途中には調整水路（余水バケ）が設けられています。昭和28年の台風により調整水路までは破損修復されていますが、下流部は概ね建設当時の状態を保っています。

います。

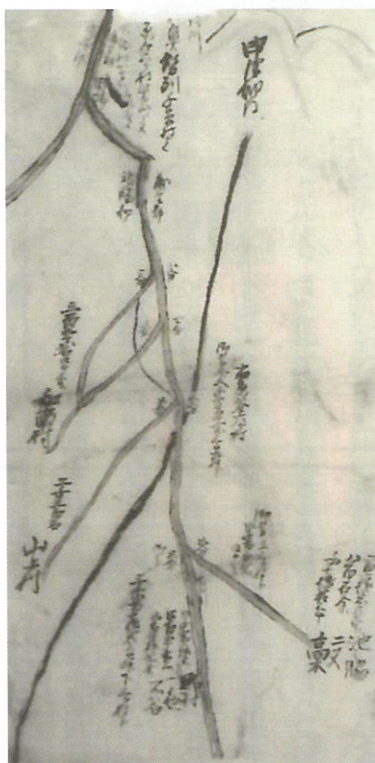
この様な画期的な大工事が遂行されたのは、当時の領主、近江国守護佐々木氏が領土の防備増強や人口増加を図るため新田開発を盛んに行い、その結果、水不足が生じ利用されていなかった渋川の水を和南川に導入する事となったものでした。

この大工事には中国で修行して中国の灌漑を学び、特に水利・産業開発に貢献したと伝えられる永源寺5世越溪秀格禅師の力が大きく、当時、越溪禅師を深く帰依していた甲津畑の下司職（荘園の一切を管理する役人）村地左近四郎友雄に渋川の利用を助言したと考えられています。村地氏は和南川の水を利用する村々に檄を飛ばし堀越井を完成させました。

しかし、水争いは絶えず、17

76年に関係する村間で正式な分木書が交わされたそうです。内容は渋川より取水した水を「赤井」で和南村へ2分（10分の2）、市原郷・山上村へ8分分水。更に下流の「野々首分木」で和南村へ3分、残り7分を市原郷・山上村へ分水。次の「井之谷分木」（甲津畑町「井之谷橋」付近）で山上村と市原郷に折半され、市原郷に流れた用水は「上野原分木」で市原上之郷（池之脇・上二俣・高木）と市原下之郷（市原野・一式・石谷）に均等配分するという定書でした。

当時、貴重な水源だった堀越井に纏わる史実や言い伝えは多く、現地を散策して古人の思いに触れてみてはいかがでしょうか。



市原郷水系概略図『市原野共有文書』
水路の分木点に「7分」「3分」などの分水比率が記されている。

IN VINO VERITAS
Oomasuya
<http://oomasuya.jugem.jp>



紅葉で知られる臨済宗永源寺を抱く鈴鹿山脈を水源にして流れる愛知川の畔山上町で、鈴鹿山脈の伏流水と近江米で醸造された数々の銘酒・地酒や特産品を取揃え販売し、全国へ発送致します。

〒527-0231 滋賀県東近江市山上町447
TEL0748-27-0014 FAX0748-27-1013
HP: <https://oomasuya.com>
定休日 第一火曜・毎週水曜日

こんにちは保健師です ⑬

「生活習慣の改善で
認知症を遠ざけよう！」



記憶をつかさどる脳の
「海馬」という部分へ酸
素を届けるのは血液です。

脳の血管を良い状態にして十分な酸素
や栄養を届けることが認知症の予防に
つながります。

そのためには①食生活 ②運動習慣
③口腔ケア ④禁煙 ⑤飲酒 ⑥睡眠
⑦生活習慣病の見直しが大切です。今回
は食生活についてお知らせします。

【食生活】

◆食事は朝食・昼食・夕食の1日3食が
基本です。3食をおいしく食べるため
には早起きや運動などで規則正しいライ
フスタイルを維持しましょう。

◆特に高齢期は肉・魚・卵・大豆食品な
どからたんぱく質をしっかりととりま
しょう。

*腎臓病など持病がある人はたんぱく
質の摂取量について主治医に相談しま
しょう。

◆高齢期はのどの渇きに気づきにくい
傾向があります。食事の時だけでなく入
浴前後、起床後や就寝前などこまめな水
分補給を心がけましょう。

永源寺地域が登場する本・雑誌

永源寺図書館提供

『おとなの総合的な学習』

～東近江の小学校周辺にかかわる様々な疑問の件～

奥田守／著・発行

長年、東近江市の教育に携わってきた著
者が、支援員として勤務した小学校の周
りでふと気になったことを調べまとめたもの。

市原小学校で勤務する中で気になったこ
とは、地域探検の引率から帰ってきた先生
が漏らした「白鳥神社って5カ所もあるん
やな」という言葉。県内7カ所ある白鳥神
社のうち5カ所が市原地区に集中している
のです。神社の祭神は、すべて日本武尊（
やまとたけるのみこと）。これは何か理由
があるに違いないと学芸員に聞き現地視察し、絵図や文献に
あたり、わかったことは…。知らないことを調べ、新たな
何かを学んでいくことのワクワクするような楽しさが伝わ
ってきます。

おとなの
総合的な学習



地域の歴史再発見講座で 白鳥伝説とヤマトタケルを学ぶ

6月24日、コミュニティセン
ター主催の地域の歴史再発見講
座で、市の学芸員の嶋田直人さ
んから「白鳥伝説とヤマトタケ
ル」について学びました。

ヤマトタケルは、第12代の景
行天皇の第2皇子で、『古事記』
と『日本書紀』とで内容が異な
りますが、九州討伐後、伊勢神宮で草薙剣を与えられると、東
国を平定。焼津や木更津、醒ヶ井など数々の伝承地が残ります。
伊吹山で大竜から毒氣にさらされ、大和への岐路の途中、三重
県亀山市の能煩野で亡くなり白鳥となって大和に戻ったという
伝説があります。

「市原地区に残る白鳥伝説の文献や絵図は、由緒を正当化す
るために後世に作られたものですが、史実ではなくても伝承や
伝説も地域の宝物である」との興味深い講演となりました。



自然の恵みに出会う場所

イタリアンジェラート 香想
宿泊体験施設 あいきょうの森



池田牧場

〒527-0213 滋賀県東近江市和南町 1572-2

TEL: 0748-27-1600 FAX: 0748-27-1626



まだまだ使えるのに、 捨てるなんて もったいない!!

まちづくり協議会環境部会が 不用品譲渡会を開催



7月29日に行われた「みんなの夏休み」
の会場で初開催

各家庭には、サイズアウトした子ども服や、仕舞ったままの贈答品、着ていない服、余っている調味料など資源が眠っています。ゴミとして捨ててしまえば焼却にエネルギーが必要になる上、二酸化炭素が発生してしまいます。

環境部では、使わない物を必要とする人に譲渡して繰返し利用することで限りある資源の有効利用や、ゴミの削減などで脱炭素社会に貢献することを目指して不要品譲渡会を開催しました。

初めての試みでどのように取り組んで行けば良いか部会で何度も話し合い、「みんなの夏休み」会場で実施することになりました。食器類、衣料品、洗剤、タオル、調味料など身近にある物に特化して募ったところ、約20人の方から350点余りの品を提供していただきました。ご協力頂いた皆様ありがとうございました。中には阪神タイガースのグッズをたくさん提供して下さい、子どもたちの人気コーナーになりました。また、譲渡会場を覗いてくださった方々は気に入った品を手に取り、「無料で良いので

すか?」と喜んでお持ち帰りいただきました。

子ども向けの3時間イベントではゆっくり吟味してもらう時間が足りなかったように思います。残ってしまった子ども服は「永源寺もみじ幼稚園」と「やまびこの家」で有効に使っていただけるようお届けしました。今回の譲渡会を通して見えてきた課題を踏まえ、次の譲渡会が有効なものになるよう取り組んでいきます。



編・集・後・記

▽今年度自治会長を任されることになって約半年。いろいろな行事をこなす、様々な会合に出席する中で、よく聞く話が地域の存続と自治会役員の後継者問題です。どこも少子高齢化の影響で人手不足が深刻です。▽コロナ禍では様々な行事が中止されていましたが、徐々に復活していくにつれて、従来どおりの行事を行うことの困難さも感じています。三年間のうちに失われたノウハウを取り戻すことと、「これって本当に必要か?」「どこまでやる?」「っていう葛藤が湧いてくるのです。▽自治会の役割について今流行のAIを使って検索すると、①住民相互の連絡や親睦を図ること②地域の環境や安全を整備すること③行政や他の団体と協力や要望を行うこと④災害や緊急時における支援や防止を行うこと⑤文化、伝統の継承や振興を行うことなど出てきました。一見ごく普通のように見えますが、一つひとつを深掘りすると、背景にいくつもの行事や会議が思い浮かびます。従来は、毎年の行事をこなすことで、そうした自治会としての役割を果たしてきたのかもしれませんが。▽今年の自治会の納涼祭には、キッチンカーに来ていただくことで役員の負担を減らすことにしました。自治会の基本的な役割は今後も変わらないと思います。やり方や内容、体制などは、これからの時代に合うように見直しをしなければならぬと、しみじみ感じる今日この頃です。(一)